

☆作業日あれこれ

5月の連休後、記録的な雨が続きましたが、定例作業日には晴れ上がり、作業日和でした。この日の参加者(焼鳥名人、亀仙人、おーち、青年部長 etc)を眺めていると、先月に引き続き午後の作業継続に赤信号が点灯する顔ぶれです。三平トキは「連休中にやまの会の大林さんが来れましたが、(最近話題の)この焼酎を差し入れてくれました」と報告してくれました。



ヤマウドのスライス

本日の観察会担当は新人リョウマによる「初夏の森・あれやこれや観察会」の始まりです。話題は草原広場の上空から降ってくる小鳥のさえずりから。見上げると樹の一番高い部分に止まり、胸を反らせてさえずる鳥がシルエットになって見えます。習性を絵に描いたような材シロです。木道の途中ではクガが割り込み、ゴバシの話題提供です。少し上流の河辺林には毎春見事な花をつけるゴバシの高木があります。以前の生態系調査ではこの森には見つかりませんでした。その後、森の整備で攪乱した木道沿いの裸地に実生苗が2本見つかり、そろそろ開花の年だと楽しみにしていた所、今年ようやくフトクグに咲いた(その数5輪)ことがアッパされました。ゴバシの種は熟しても地面に落ちずに糸でぶら下がり赤い実を目立たせ、鳥に食べさせ種子を拡散させます。林床の土には鳥に運ばれたヤマハ、ヤマウド、タノキ、ヤマウドなどの種がたくさん含まれています。森の中で陽が当たる場所ができるとこれらの植物が一斉に発芽、成長するのを見てきました。それは陽が射す場所ができたので鳥が種を運んだと考えるよりは、森一面に鳥が運び眠っていた種が陽が射したので発芽したと考えなければ説明できないほど、春には見事にこれらの植物が芽を出します。発生したのは林床の土を残して裸地にした部分であり、このゴバシも地中に眠っていた埋土種子が発芽したと考えています。成長の速い木ですので順調に育てば(樹高20m)早春の森のシンボルになることでしょう。続いて森には特徴のあるイカルのさえずりも聞こえています。この日、リョウマが聞かせたか

ったのは毎年森に出没し、マルに何度も写真を撮られているフクウの鳴き声です。主役登場は最後、森の奥のヤマツツジの盛りを過ぎた花を見ていた頃によりやく鳴き出しました。フクウの聞きなしは「ぼろ着て奉公」、材シロは「一筆啓上仕り候」、イカルは「月・日・星」などが代表的なものです。地方によって様々な聞きなしがあります。河辺林通信06年6月号にはイカルの聞きなし、当市池庄町居住のスタッフの「コ、池庄カー」、大先生の「ネンベンコイタ」などが紹介されています。抑揚やリズムを表現したもので、文字にすれば、これが同じイカルかいなと言うことになります。観察会を終え帰る皆の眼前には、キジバトの羽が散らばっていました。特徴ある模様の翼の羽など他の残骸は一切見つからず、通いの猛禽によって襲われ、食べ残した翼や頭・脚などは地上の獣や昆虫が一晩のうちに運び去ったのでしょうか。残された羽毛に河辺の森の食物連鎖を見ました。



モリイコ！事業、スタート！

作業の方は、ドングリ広場では間引きや萌芽更新で伐った枝のチップ処理、野神さんの周りの竹林では積雪などで折れた竹の処理、ケヤキの林では細竹処理、屋外トイレの横では機械刈りです。番外は大先生と焼鳥名人、食材調達です。冬の間には草原広場で刈込んだススキ藁を積上げて仕込み、取り除くと見込み通りの物が現れました。大先生、ヤマウドの株のある場所にススキを積上げ、新芽を藁の中でモヤシ状に成長させていたのです。収穫の後、柔らかい葉の部分は天ぷら、軸はスライスして晒し、味噌で食べるべく準備をしておられました。簡単に済ますはずが、いつの間にか豪華になるお昼です。この日もヤマウドの山菜料理、八宝菜やサダなどが増えています。愛子様は、ベテラン不在のため炊込ご飯の釜炊代役を務めておられましたが、なかなか免状はいただけなかったとか……。おこげの香ばしいにおいが漂っておりました。豪華なおかずと例の焼酎、そして呑み助の顔ばかりでしたが、なんとか午後の作業に突入しました。

6月22日(水曜日) 週日活動 森の居酒屋は6月8日 午後7時頃～

6月11日(第2土曜日)9時～(遅刻可)

主 催 者 : 遊 林 会

連絡先(遊林会事務局): 滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL: <http://www.yurinkai.org/>

E-mail: ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえフトクグ」で検索!

5月の後半は雨続きでしたが、第4水曜日は見事に晴れ、作業にはもってこいの天気でした。今日の作業は2班に分かれて実施。①サ機械刈りと、②発生し始めた細竹の刈り歩きです。マルが作業の説明をしている時、横で小さなお子さんを連れのお父さんが話を聞いていました。てっきりお散歩に来られた一般の方だと思っていたのですが、説明を終えると「あのう、軍手を貸していただけますか…」と。聞くと、当初は本当にお散歩に来られただけだったのですが、人が集まっている様子を見て参加してみようと思ったとのこと。1歳8ヶ月のお子さんとともに、細竹刈り歩きに参加されました。

この時期、草は刈っても刈ってもきりがありませんが、それでも刈らねばなりません。生えているドングリなどの実生は刈らないように注意しながら、丁寧に草刈りをしていきました。草刈りといえば、山番こと松本さんの仕事ぶりにふれないわけにはいきません。この時期、山番さんは一日中、森の草刈りをしてくださいます。遊林会の作業で草刈りをするのは林の中が主であり、里山を保全することを目的として行っています。山番さんは歩道周辺や草はら広場、水辺沿い、駐車場など、森に来られる方たちが快適に森を楽しんでくれるようにと、ありとあらゆる場所を草刈りしてくださいます。その面積は膨大で、刈られた場所の一部を見たオチ氏は「これ、松本さん一人で刈らはったんか!?!」と驚いていました。実際には、オチ氏が見た場所の数倍もの面積を一人で刈ってくださいまっています。ありがとうございます。

竹は今年発生が遅いようですが、そろそろ本格的に生えてきました。13年続けてきた竹刈り作業ですが、まだ終わりはしません。来月から、さらに本格的に竹退治が始まります。

お昼は料理番が少なくないへんでしたが、豆ご飯や豆の炊き合わせ、豆サラダなど豆づくしで、1歳の子どもも含めおいしくいただきました。

☆5月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。5月は1回の活動を行いました。

5/19 9人 第2駐車場側の竹林内で折れていたスギの伐採、河川敷側の竹林で折れている竹の処理、野鳥観察小屋付近で倒れたスギの処理。女性はみどりのつどいの用意をしました。6月は、2日、16日、30日が活動日です。

☆河辺いきものの森スタッフルーム情報

5月に入り学校などの利用が本格的になってきました。森は連日子どもたちの声でにぎわい、スタッフは子どもたちが楽しんでもくれるようなプログラムの準備と実施でてんてこ舞いです。今年はこうした例年のレジャーメニューのほかに、新たにモリイコ！がスタートするのでさらに多忙。しかし多

忙といってプログラムに手を抜くことはマルが許しません。スタッフが作成したクイズラリーのクイズ案を添削するマルは、何卒なクイズには容赦なく「作り直し」命令を出しています。こうした作業はクイズを作る方も添削する方も大変です。「忙しいから先月のクイズと同じでいいや!」と言ってしまえばどんなに楽かと思いますが、そうはせずにこうしたやり方を10年続けてきたからこそ、たくさんの子どもや先生に評価される質の高いプログラムに（つまり質の高いスタッフに）育ってきているのです。6月も毎日学校が授業で訪れ、その勢いで夏休みイベント、やまの子キャンプ実施…と続いていきますが、スタッフ一同がんばります！

☆モリイコ！ スタート

前回の通信でもお伝えした新事業「モリイコ!」が5月28日よりスタートしました。4歳～小学3年生の子どもたちが1年間に10回以上森に来る事業です。もちろん資金なしでは実施できませんので、緊急雇用創出事業に加えて参加者から1年間に2万円の参加料を頂きます。9:30～16:00まで一日子どもさんをお預かりし、年間50回（年間10回×4グループ＋オプション活動日10回）の活動を企画し、この運営のためにスタッフ7人が入れ替わり立ち替わり対応することを考えると…正直赤字です。しかし、低年齢から森やいきものとふれあいながら中身の濃い活動をすることは、平地のこの森でぜひともやってみたいことだったのです。一方、参加者としてはこうした自然の中での活動に年間2万円という料金設定は高いのでは？と思う人もいるでしょう。特にこの地域のように周りに自然が多い所では…そうしたことを踏まえ、応募締切まであと2週間余りを残していた先月号の通信執筆時点では、定員40名に対して応募が14名「も」と記しました。スタッフとしては20人集まれば良い方かなあ…という予想だったのです。ところが！ふたを開けてみれば87人も応募をいただき、抽選会sを開くことになりました。せっかく応募してもらいながら抽選会で落選した子どもたちのために、急遽3回連続イベントを企画。森に来たいと思う子どもたちに応えようと思います。こうして、定員一杯40人でモリイコ！はスタートしました。あとは、子どもたちや保護者のかたの期待を上回るよう、質の高い活動をすべく、がんばるのみです。なお、モリイコ！の様子をお伝えするために新たにブログを立ち上げました。「モリイコ隊活動記」で検索してみてください。

☆6月の作業は…

6月といえば竹。竹の作業と草刈り作業が中心となりそうです。お昼は竹コづくしかな？

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします！

発行者：東近江市建部北町 河辺いきものの森材センター内 遊林会 世話役 武藤精蔵 Tel 0748-20-5211

この用紙にはkikitoペーパーを使っており、滋賀県湖東地域の森の保全に寄与しています